

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

## Injury Alert (傷害注意速報)

## No. 31 フード付きパーカーによる溢頸

事例	年齢：4歳9か月 性別：女 体重：14.9kg 身長：99.1cm (頸部まで83cm, 頸周り24.5cm)	
傷害の種類	溢頸	
原因対象物	フード付きパーカー	
臨床診断名	溢頸	
直接医療費	67,190円 (入院)	
発生状況	発生場所	自宅の玄関
	周囲の人・状況	自宅内で遊んでおり、一人で玄関から外へ出た。両親および7歳の兄はともに家にいたが、患児が外出したことを特に気にしていなかった。
	発生時刻	2012年3月11日(日曜日) 午後1時30分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	自宅の居間で父親と7歳になる兄がピアノを弾いていた。母親は台所にいた。患児が玄関の戸を開き、外出した気配を感じたのが午後1時30分頃であったが、ピアノの音のため詳細は不明である。午後1時40分頃、患児の所在が気になった母親が玄関に行ったところ、開き戸の取手の下部分(写真1)に、患児の着ていたパーカー(写真2)のフード部分が引っかかった状態で、戸は閉まっていた。患児の泣き声が聞こえたため外開きの戸を開けたところ、パーカーの頸部が患児の頸に巻き付いた状態であった。慌ててパーカーを脱がせ、助け出したところ咳をし出した。その際、口唇の色は黒かった。意識消失はなかった。午後1時45分頃には様子が落ちついたようであったため、保護者は受診先を探した。しかし、近隣で受け入れてくれる施設がなく、1時間後に当院に受診となった。
治療経過と予後	来院時のバイタルサインに異常はみられなかった。眼周囲にうっ血斑(写真3)、頸部前方に線状の皮下出血(写真4)を認めた。状況からパーカーのフードが引っ張られたことによる溢頸であると推測された。遅発性の障害を監視する目的で、生体情報モニターによる管理下で入院とした。入院後は特に状態の悪化を認めず、翌日には退院となった。その後、外来を再受診しているが、一度なくなった夜尿が再び見られるようになった以外は特に状態の変化はみられなかった。	

## 【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

この傷害に対し、「フード付きの服を着ているときは、ひっかからないように十分気をつけましょう」というだけでは予防することはできません。衣服の構造を変えることが必要です。

1. 着ていた服のフードのひもがすべり台に引っかかり、首が絞められて死亡する事例はよく知られている。米国消費者製品安全委員会によると、1985年からの10年間に死亡事故が17件、負傷事故が42件と報告されている。欧米等では、子ども用衣類に関連した事故情報を収集、分析し、「米国消費者製品安全委員会(CPSC)によるガイドライン」、「米国材料試験協会(ASTM)による安全規格」、「英国規格協会(BSI)による子ども用衣類のデザインに関する安全規格」などにより、子どもの衣類に起因する事故は著しく減少している。
2. わが国でも、2006年秋に東京都が調査を行い、子ども用衣類の安全確保に関する報告書が出された<sup>1)</sup>。それによると、子ども用衣類が関係した事故(危害、危険、ひやり・ハット)を経験した人は、全体の77%を占めており、そのうち6人に1人の割合で危害(怪我をした)にあった経験をしていた。東京都の報告を受け、業界団体はガイドラインを出している<sup>2)</sup>。
3. 東京都の報告書には「上着のフードは、遊び場の遊具やドアノブなどに引っかかり絞首等の危険があるため、引っ張り力が小さくても取り外せるフードなど、危険性を考慮した設計をすること」と明記されている<sup>1)</sup>。東京都の報告書で指摘された通りの事故が5年後にも発生している。すなわち、この子ども用フード付きパーカーには製品としての欠陥がある。
4. 頸部前方の皮下出血や目の周りのうっ血斑の存在から、絞首状態は数十秒間ではなく、数分間は持続したと推測される。フードの前方の首元が、写真2のように丸首スタイルでなく、Yシャツのような前開

きになっていれば強く締め付けられることはなかったと思われる。本製品を用いて検証実験を行い、襟元の布の首にかかる力を測定しておく、今後の安全な服の設計に役立つと思われる。

5. この患児の通う保育所では、フード付きの洋服を着て登園することが禁じられていた。保育の場だけでなく、家庭でのフード付き洋服の危険性についても保護者に知らせる必要がある。
6. 引かなかったドアノブについても、デザイン性だけを追求することなく、ヒモやフードが引がかかって外れやすい構造について検討する必要がある。



写真1 ドアの取っ手の下部分にフードが引っかけた。地面から取っ手下部までの高さは67cmであった。



写真3 眼周囲のうっ血斑



写真2 市販されているフード付きパーカー（フードの首回り：52cm）



写真4 頸部前方にみられる線状の皮下出血

## 文 献

- 1) 東京都商品等の安全問題に関する協議会：子ども用衣類の安全確保について。2007年3月
- 2) 全日本婦人子供服工業組合連合会・日本織物中央卸商業組合連合会：子供用衣類の設計に関する安全対策ガイドライン。2008年6月